

2023年11月6日、月1回のリハビリテーション科全体ミーティングで患者様にご協力いただき症例検討会をおこないました。

今回の患者様は、左大腿骨頸部骨折により左人工骨頭置換術を施行されており、担当は岩崎副主任と臼井PTでした。患者様からは「歩くと左脚の付け根が痛い」との訴えをいただいたので、「歩行動作中の痛みを取る」ことを目的にリハビリテーション科全員で介入させていただきました。

具体的には臼井PTが患者様の情報をスタッフに伝えた後、歩行動作の観察をおこない、各々が分析した結果を話し合いました。その結果、「左下肢へスマーズに体重移動ができないこと」が問題と考えました。この問題点に対し、はじめに岩崎副主任が、左股関節の可動域改善や感覚入力を目的に、理学療法をおこないました。つぎに佐野が、左下肢へ体重をかけていく際の代償動作の改善を目的に、左下肢への荷重練習をおこないました。また、藤原科長が、動作時の左股関節周囲筋の活動向上を目的に、様々な動作練習をおこないました。すると、介入前より左下肢へスマーズに体重移動ができ、患者様の疼痛は軽減しました。

今回の症例検討会では、『なぜ痛みが生じるか』について動作を詳細に分析し、機能障害を明確にする重要性と患者様に合った運動療法の効果を学ばせていただきました。

リハビリテーション科は、引き続き患者様をしっかりと治すために、リハビリテーションの質の向上に取り組んでまいります。

(文責 佐野 紘一)

### 【症例検討会風景】

